

## 地方創生先行型交付金 効果検証シート

No	① 交付対象事業の名称	③ 実績額 単位:円	④ 本事業における重要業績評価指標(KPI)						⑤ 本事業終了後における実績値		⑥ 外部有識者からの評価		⑦ 実績値を踏まえた事業の今後について	
			指標		H26年度	指標値	単位	目標年月	実績値	事業効果	事業の評価	外部有識者からの意見	今後の方針	今後の方針の理由
1	定住ガイドブック作成事業	1,731,240	ガイドブック印刷	—	1,000	部	H28.3	9,200	A	総合戦略のKPI達成に有効であった	・印刷・配布数も重要であるが、結果的に移住にどのように結びついているかも、しっかり確認する必要がある。 ・配布する場所についても観光に関連した場所等の工夫も必要である。	事業の継続	定住施策に併せたパンフレット内容について随時更新を行う等、効果的に情報発信を行う。また、定住フェアなど町外でのPRに積極的に活用するため。	
			東京・大阪での定住フェアでの配布数	—	300	部	H28.3	1,040						
2	世羅町ニューファーマー支援事業	1,250,000	新規就農者確保	—	5	名	H28.3	1	C	総合戦略のKPI達成に有効とは言えない	・目標数値の設定が妥当であったか、実績値1名の原因を探る必要がある。 ・応募があつて最終的にマッチングができなかった原因について検証しておく必要がある。 ・農業だけの問題ではなく定住施策と連携しながら事業を進めていくことが有効である。 ・この事業は世羅町の大きな魅力であるため評価が低いからといって、やめるわけにはいかない。	事業内容の見直し(改善)	早期の法人訪問等の事業の周知徹底を図り、新規就農者確保の目標値を達成するよう取組む。	
3	世羅町住宅リフォーム補助事業	10,201,000	住宅リフォーム件数	47	55	件	H28.3	49	B	総合戦略のKPI達成に有効であった	・何年か事業をやっており現在は年間50件ぐらいで推移しており、世羅町に住んでいる方へ定住を図るためと、町内の建築業者へカンフル剤となっている。	事業の継続	既存の住宅リフォーム事業の継続し、町内居住者の定住を図るため。	
4	世羅町定住促進空き家活用事業	600,000	事業を活用した空き家の改修件数	10	7	戸	H28.3	2	D	総合戦略のKPI達成に有効であった	・空き家バンクは8件成立しているが、制度変更などあり実績値は2件となっているが、移住実績の實質的には、もう少し多い状況ではある。 ・今年度からは若い人等に使いやすいように制度を変えて対応を行い利用の促進を図る。	追加等更に発展させる	住宅支援の棲み分けを行い、対象者を町外からの移住者に限定する。支援内容について大幅に拡充を行い、町外からの移住者の呼び込みを図る。	
5	未来創造支援事業	4,300,579	農業研修生	3	6	名	H28.3	4	C	総合戦略のKPI達成に有効であった	・十分に良い事業である。 ・未来創造支援事業とニューファーマー支援事業は繋がっているので一緒にPRすることで、より関心を持つ人が増える。 ・目標値の根拠を明確にする必要があるが目標設定が高いのではないかな。	事業の継続	昨年度初めて実施した夏と秋の農業体験で、今年4月に1人の研修生の確保と1世帯4人の定住につながっているため、継続したPRで確保を行う。	
6	企業立地支援奨励金	3,238,000	雇用増加事業所数	1	3	件	H28.3	0	B	総合戦略のKPI達成に有効であった	・人手不足により事業者が立ちいなくなるのを防ぐために、機械化の設備投資により省力化を行い、企業の存続により雇用確保に寄与している。 ・雇用すると企業側の将来負担が増えるというリスクもある中で、20万円が魅力的かといえれば疑問が残るため、検証が必要である。	事業の継続	町内工場等の立地企業の設備投資に結びついているため。	
			奨励金交付数	8	10	件	H28.3	8						
7	世羅町商工業の活力向上を支援する事業	5,000,000	後継者育成雇用	4	3	件	H28.3	3	B	総合戦略のKPI達成に有効であった	・実績値は前年度と比べると上がっている状況である。目標値については根拠に基づいて設定し、現実的な目標値を立てないと分析ができない。	事業の継続	後継者育成が将来の事業承継につながっている。研修会の受講を重ねることで会社経営のレベルアップにつながる。専門的な問題が細分化されており、専門家の派遣により解決に結びついているため。	
			研修会等受講	50	40	件	H28.3	61						
			専門家派遣	25	60	件	H28.3	35						
8	地方人口ビジョン・地方版総合戦略策定事業	9,040,589	—	—	—	—	—	A	総合戦略のKPI達成に有効であった	・アウトカムの指標を設定しないと成果が回りにくいため、指標の設定の仕方は整理が必要である。 ・実現可能性の低い目標値の設定では分析ができないため、目標設定について今後検討が必要である。	事業内容の見直し(改善)	計画策定に携わった外部委員組織により効果検証を行い地方創生を推進する。		

### 事業効果

- A: 指標が目標値を上回る
- B: 目標値の概ね70%以上達成
- C: 目標値未達成だが事業開始前より改善
- D: 事業開始前より悪化